

新潟県企業短期経済観測調査の概要

(業況感)

- **業況判断D.I.**は、「悪い」超幅が大幅縮小した。
—— 製造業は、「良い」超に転化した。非製造業は、「悪い」超幅が縮小した。

▽主な業種別の変化要因

		業種	主な要因
製造業	改善	はん用・生産用・業務用機械、鉄鋼、電気機械、輸送用機械、木材・木製品、紙・パルプ、食料品、繊維、金属製品	旺盛な海外需要の獲得 建設工事関連受注の増加
	悪化	窯業・土石製品	大型受注の一服
非製造業	改善	建設、卸売、電気・ガス、対事業所サービス、情報通信、運輸・郵便	建設工事関連受注の増加 製造業好調に伴う売上改善
	悪化	小売、不動産	競合激化に伴う販売不振 不動産投資の一服

- **先行き**については、「悪い」超が小幅拡大する見通しである。
—— 製造業は、「良い」超幅が縮小する見通し。非製造業は、「悪い」超幅が縮小する見通し。

(事業計画)

- 2017年度の**売上高**および**経常利益**は、前年を上回る計画である。
—— 経常利益は、製造業で、ITや自動車関連等の海外需要の獲得などから、増益計画となっている。非製造業は、建設工事受注の減少懸念などから、減益計画となっている。
—— 経常利益を前回調査対比で見ると、製造業では、ITや自動車関連、資源開発等の海外需要の獲得などから、上方修正となった。非製造業では、新規出店効果などから、上方修正となった。

- 2017年度の**設備投資**は、前年を上回る計画である。
 - 製造業は、前年の大型投資の反動から、前年を幾分下回る計画となっている。非製造業は、新規出店計画の拡大や大規模設備の更新などもあって、前年を上回る計画となっている。
 - 前回調査対比では、製造業で、大型の更新投資やIoTを活用した効率化投資がみられたことなどから、上方修正となった。非製造業では、新規出店計画の拡大などから、上方修正となった。
- この間、2016年度の売上高は前年を下回ったものの、経常利益、設備投資は前年を上回った。

(その他の判断項目)

- **販売価格判断D. I.**は、前回調査並みの「下落」超となった。**仕入価格判断D. I.**は、「上昇」超幅が小幅縮小した。
- **雇用人員判断D. I.**は、「不足」超幅が拡大した。
- **資金繰り判断D. I.**は、「楽である」超幅が拡大した。**貸出態度判断D. I.**は、前回調査並みの「緩い」超となった。**借入金利水準判断D. I.**は、「低下」超幅が小幅縮小した。

以 上